



らんじょう
濫觴の舞

古来より、人は自然の大いなる恵みと脅威を知っていた。
そんな大自然を前にして、人は謙虚であった。
大地の恵みに感謝して、天地の怒りを畏怖する。
日々の暮らしの中にあっただのは、静かな「生」への祈りであった。
そんな祈りが人々を結び、動かし、祭りとなって、現代に守り伝えられてきた。

伝わる情熱に心も躍る

*The human knows the great gift and menace from the nature.
In front of such great nature, the human was humble.
Grateful for the gift from the earth, and fear for the anger of the nature.
Calm prayer for "life" was in such daily life.
Such prayer connected the people, move them to be a festival and has been succeeded until now.*



霊山太鼓

祭
紀
行